

1. 評価結果概要表

作成日 2008年7月16日

【評価実施概要】

事業所番号	4272200207		
法人名	社会福祉法人 たけのこ会		
事業所名	グループホーム 鶴亀		
所在地 (電話番号)	長崎県五島市浜町73番地3 (電話) 0959-73-5120		
評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成20年4月2日	評価確定日	平成20年7月29日

【情報提供票より】(平成19年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 6人, 非常勤 2人, 常勤換算	7.0人

(2) 建物概要

建物形態	単独	改築
建物構造	鉄筋平屋 造り	
	1 階建ての	1 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	12,000 円	その他の経費(月額)	3,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	150 円	昼食 250 円
	夕食	350 円	おやつ 150 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1	4 名	要介護2	2 名
要介護3	1 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	1 名
年齢	平均 83.7 歳	最低 69 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	井上内科小児科医院、聖マリア病院、長滝歯科医院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

保育園を改装して作られたホームは、周りののどかな五島の風景にすっかり溶け込んでおり、道路を隔てて建っている小学校の児童も気軽に立ち寄れるような場所になっている。地域の7割ほどが高齢者で、独居の方も多く、ご本人・ご家族ともに安心して暮らせる住居を提供しようと建てられた。法人の広大な敷地に、理事長が減農薬野菜を作り、事務長が知人から完全無農薬野菜を分けて頂く等、安全な旬の食材を食べることで、健康で生き活きと過ごせるように心がけている。病院看護師と連携をとる事で、異常の早期発見につながり、夜間に急変したことがない等、ご利用者・ご家族に安心して頂いている。職員も、ご利用者が楽しく過ごせるようにと、公休を返上して自ら行事に参加し、ご利用者も体調不良でなければ全員に参加して頂く等、ご利用者第一にケアを行っている。ホームの質の向上には、職員の質の向上が欠かせないと、法人全体で、研修の充実などに取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価を踏まえ①情報の共有②ご利用者一人ひとりの尊重③事故報告書の活用の3点を重点的に管理者・職員と話し合い、申し送り簿等の書式を変更したり、些細な事でも記録する等して改善した。ホームの情報誌となる“鶴亀だより”も中断していたが再開できている。ご家族へのご利用者の日常の様子等の情報提供や、個別の必要摂取カロリーの把握等は継続中である。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は、職員に資料を渡し、職員もケア等の取り組み状況を考えてが、事務長が記入したものを職員に見てもらい形に終わっている。しかし、自己評価後は職員の利用者に対する対応が変わり、事務長も“介護サービス”という点の意識付けになったと感じ、次回は職員にも記入してもらい、更に職員の質の向上につなげたいと考えている。</p>
	②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>市の職員より「ホームでいろいろな行事を行なっているが、行事一覧表を作成しては」という提案を頂き、早速、一覧表を作成し、ご家族に提示したり、同法人他事業所との情報の共有に役立っている。家族会設立の要望に対して、現在、パーベキューを兼ねた家族交流会を検討し、各ご家族に相談し、設立に向けても検討中である。会議の内容が、ホームが行っている事等の現状報告が主となってきており、ご家族や地域の方等からのご意見・ご要望等も言ってもらえるよう努めている。ご利用者も毎回出席し、発言されている。</p>
重点項目	③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ご家族は、来訪時に職員に直接意見等と言われ、職員から管理者や事務長へ報告が行われている。事務長や管理者も、ご家族の来訪時や運営推進会議・行事等に参加された時に、ホームに対する意見・要望等をお聞きするようにしており、意見等が出た場合には記録を残し、会議等で職員も含め対応策を話し合っている。ご家族から意見等が出ている訳ではないが、2ヶ月に1回発行の“鶴亀だより”では、諸事情により来訪が難しいご家族に対して、ご利用者の暮らしぶりを知っていただく機会が少ない、と事務長は感じ、報告方法について職員と検討している。</p>
重点項目	④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の行事にお呼ばれする事が多く、町内の運動会ではご利用者も参加し、小学校の運動会や発表会、ちゃんこ祭りや他事業所のバザー等にも行っている。小学生が2ヶ月に1回の割合で楽器演奏や風船パレード、ジャガイモ作り等に訪れ、老人クラブも歌や踊りを披露に来られ、その時の様子を撮った写真を差し上げたりと、活発に交流されている。小学校の入・卒業式や地区敬老会、財産区の総会等やパトロールにも参加している。ホームの改装前の保育園を卒園した児童が訪問してくれることもある。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人としての理念もあるが、ホーム独自の介護理念を1年半くらい前に事務長・職員とで作成した。独居の方も安心して暮らせる住居を提供し、ご利用者が、地域社会の中でその人らしく、自立した日常生活を営むことができるように、第一にご利用者、次にご家族、最後に介護者が満足できるような介護をという思いを込めて作られている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念について、毎月のスタッフ会議や日々の現場で、事務長がご利用者中心にと話をしている。理念の実践の為に、ご利用者個人の状態をよく把握し、ご利用者一人ひとりのご希望に添った、ご利用者中心のケアを行っている。職員が、見てあげているという気持ちが完全に抜けきれていない時に、言葉遣いに現れたり、特定のご利用者に対して適切なケアが出来ない時がある。	○	理念を唱和することにより、理念に沿ったケアを行えるようになってきているが、言葉遣い等もう少し意識する事で更に良くなると考え、今後も続けていきたいと事務長は考えられている。職員の言動等を振り返る機会を作る等、更に理念の実践が行えるような取り組みに期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内の運動会ではご利用者も参加し、ちゃんこ祭りや小学校の運動会や発表会、他事業所のバザー等にも行っている。小学生が、2ヶ月に1度の割合で楽器演奏や風船パレード、ジャガイモ作り等に訪れ、老人クラブも歌や踊りの披露に来られ、その時に事務長が撮った写真を差上げたりと活発に交流されている。小学校の入・卒業式や地区敬老会、財産区の総会等やパトロールにも参加している。	○	19年度も近隣保育園との交流を予定していたが実現するまでに至らず、20年度は、保育園にホームの訪問を依頼する予定である。また、18年度は地域の歌謡クラブとの交流もあったが、19年度は無かったので、アプローチして再開したいと考えられている。今後の更なる取り組みに期待していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価を受け、理事でもある事務長が、特に改善したい①情報の共有②ご利用者一人ひとりの尊重③事故報告書の活用の3点ほどを職員に投げかけ、管理者と職員とで話し合い、書式の変更や些細な事でも記録する等の改善に努めた。今回の自己評価は、職員に資料を渡し、職員にも自分達の取り組み状況を考えてもらい、事務長が記入した。自己評価後、職員のご利用者に対する対応が変わり、事務長もプロとしての意識付けになったと感じている。	○	今回の自己評価は、職員も項目を見てはいるが、自分で記入出来ていない分、不十分であると考えられている。項目一つ一つの意味を更に理解し、次回は全職員が自己評価票を記入するなど、更なる取り組みに期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市の職員より、「ホームでいろいろな行事を行なっているが、行事一覧表を作成しては」という提案を頂き、早速、一覧表を作成しご家族に提示したり、同法人他事業所との情報の共有等に役立てている。家族会設立の要望もあり、現在バーベキューを兼ねた家族交流会を検討中である。現状報告が主になっている為、会議での議題が少なくなってきたり、ご家族等から意見・要望等を出していただけるよう努めている。	○	市からも「できるだけ2ヶ月に1回のペースで実施してほしい」と言われているが、地域の方もお忙しく、日程調整が難しいため2ヶ月に1回の開催はお願いしづらいつ感じている。地域のメンバーを増やしたり、日程調整が難しい場合は、副会長等の役員に出席して頂く等の対策を検討され、会議の開催回数を増やされることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事務長が、市役所長寿介護課へ週に1回の割合で訪問し、担当者や顔馴染みになっている。社会福祉協議会への出席や他事業所の請求書提出に訪れた時に立ち寄り、ホームの入居者一覧・入退居通知・鶴亀だより等を持参したりと、定期的に窓口を訪問し、ホームの状況を報告する等している。グループホームの経営やスプリンクラーの設置等について相談し、親身になって聞いて頂いている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	暮らしぶりは電話で伝えたり、請求書を送る際に同封した行事等の写真や“鶴亀だより”で、ご利用者の様子を見ていただいている。健康状態は定期受診の結果を手紙にて報告し、症状に変化があった時には、その都度報告している。金銭管理は現金出納簿のコピーを送付し、領収書も個別にファイリングしており、ご家族の希望によりお見せしたり、お渡しするようにしている。職員の異動は、ご家族の来訪時に紹介している。	○	“鶴亀だより”は19年6月に再開し、現在2ヶ月に1回の発行で、遠方に住んでいる等の理由で来訪が難しいご家族に対して、ご利用者の暮らしぶりを見ていただく機会が少ないと事務長は感じている。行事等のご利用者の写真やその時の様子を書いた手紙等を毎月送付する等、ご家族が更に安心できるよう個々に合わせた報告をしていかれることを期待していきたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族は、来訪時に職員に直接意見等を言われ、職員から管理者や事務長へ報告が行われている。事務長や管理者も、ご家族の来訪時や運営推進会議・行事等に参加された時に、ホームに対する意見・要望等をお聞きするようにし、意見等が出た場合には記録を残し、会議等で職員も含め対応策を話し合っている。	○	ご家族より家族の交流会の要望が出ており、現在、家族会の設立に向けて検討中である。ご家族が交流を持てる場になると共に、ホームに対してご意見・ご要望等を表せないでいるご家族のご意見等が汲み取って頂ける場が出来るような取り組みに期待していきたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	理事長や事務長は、職員の異動は基本的に行わないこととしており、職員の休み等の希望に応じて勤務調整をしたり、管理者や事務長が職員の悩みを聞いたり、定期的に職員の親睦会を開く等、職員の勤務条件の改善やストレス解消に努めている。この1年職員の交替はないが、職員が交代した時には、ご利用者の状況・性格・その時の心情等に合わせて説明の仕方を変え、ご利用者のダメージを最小限に抑えるように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	理事長は、外部研修参加は常勤・非常勤の区別なく、旅費等を法人が負担し出勤扱いにする等、研修に参加しやすい環境を作り、順番に出席してもらっている。伝達講習を行い資料を回覧する事で、職員間で内容を共有している。内部研修は伝達講習を含め、身体拘束・虐待防止、感染症について等を事業所で月に1回行っている。理事長が、職員毎の経験等を踏まえ次の資格受験を奨励しているが、職員毎の育成計画を作成するには至っていない。	○	理事長が、資格取得等のスキルアップを積極的に奨励していることも踏まえ、職員毎の立場・レベル等に応じた育成計画を作成され、更なる職員の質の向上につながることを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事務長が、同業者の立上げの際に助言したり、その後も継続して訪問し情報交換している。五島市グループホーム協議会に参加し、研修会に出席したり、介護支援専門員が、2～3ヶ月に1回開催されるケアプラン検討会に出席している。今年2月より、大浜地区3事業所で、職員の交流研修を開始し、今後も継続して交流研修を行っていく予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	離島ということもあり、以前から顔馴染みの職員やご利用者がおられる事で、ご本人も安心して入居されている。以前からこの地域に住んでいる方でなくても、来られた人を快く受け入れるという土地柄もあり、ご家族が見学に来られた後に、ホームの介護支援専門員が入院先や自宅を訪問し、状況把握しながら顔馴染みの関係を作る事で、スムーズに入居して頂いている。入居後も、ご家族や友人に訪問して頂くように依頼し、ご利用者が不安にならないよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご利用者から、ジャガイモ等を作る時の農作業の仕方や筍の湯がき方等を教えて頂いたり、出来ることを率先して手伝って頂いたり、未婚の職員には「早く彼女・彼氏を作りなさい」と心配して頂いたりする。ご利用者が、これまでの生活やこれからの人生について話す事も多く、職員は人生の先輩として、会話に重みを感じ学ぶことが多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者が、ホームでどのように暮らしたいかを把握し、日々の生活行為について、どうしたいと思っているのかも把握している。聞き取り等が難しい方も、その時の行動や表情、ご家族からの情報、職員間での話し合いやご利用者に寄り添うことで、その方の思いを汲み取っている。希望等を表さない方も、ご本人の生活歴や習慣等を踏まえて、その方が希望されると考えられる、外出や外食・行事等へ参加して頂いている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者が、原案作成し職員がチェック・追加修正等した後に、ご家族に説明すると共に意見を頂くことで“その人らしい”計画となっている。ご利用者毎の担当者が、モニタリング記録票に、個別の(介護計画・行動計画)ケア手順書を作成している。地域で暮らすという視点が、盛り込まれていない計画がみられる。また、ご家族は「おまかせします」と言われる事が多く、意見が反映できていないと言われている。	○	計画作成担当者は、ご家族や職員からもっと意見を頂きたいと考えられている。目標が大括りなものとなっており、ご利用者一人ひとりの状況・思い・生活習慣・好み等を踏まえた、『その人らしく暮らし続けるため』の個別・具体的な課題・目標が記載された計画となるよう、今後の更なる取り組みに期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ご利用者・ご家族の要望等に変化が生じた場合や、新たな気付きや意見が出された場合は、計画の見直しを設定した時期の前でも、臨機応変に見直しているが、見直しの時期が6ヶ月毎に設定されている。毎月のスタッフ会議で、計画の変更が必要な方を優先に検討し、特に要望・状態に変化がみられないご利用者については、毎月全員の検討までは行われていない状況である。	○	現在、介護計画の期間が6ヶ月毎に設定されているので、3ヶ月毎に設定する予定である。日々の申し送りの時間を活用して、全員の介護計画の見直しをされると共に、ご利用者の状態等に合わせた計画の見直しとなるよう、今後の取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	看護師を配置し、協力病院も24時間対応可能で、医療連携体制は整っている。美容院や買物、お寺参り、マッサージ等の外出や外泊時の送迎、外泊時の日程調整や洋服等の準備、入退居時の荷物の運搬等、ご本人・ご家族の要望に臨機応変に対応できるよう支援している。若い頃、島外で生活されていた方が、「通っていた学校の近くにある施設に、入居したい」と希望された。職員が時間をかけて傾聴した事で、鶴亀での生活に満足され、現在は「最期まで鶴亀に居たい」と話されるようになった。	○	ご利用者の筋力低下防止やリハビリのために、同法人他事業所のパワーリハを、空き時に利用させて頂いていたが、片道20分掛かる等の理由で訪問が中断してしまい、ホームで平行棒やブーリー・自転車漕ぎの器具を購入したが、あまり活用されていない。ご利用者の身体機能の維持にも、今後は活用していきたいと考えられている。ご利用者が楽しみながらトレーニングできるようなメニューを作ったり、環境を整えるなど、今後の取り組みに期待していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も引き続きかかりつけ医に診て頂き、大きな病院も医師が交代する際には、医師間での引継ぎをして頂き、かかりつけ医とはいつでも相談できる関係にあり、看護師との連携も取れ、異常の早期発見につなげている。常に職員が通院介助をし、医師から家族同伴の依頼やご家族が通院介助を希望された場合には、ご家族に同行して頂き、ご利用者に異常があった場合も、ご家族に連絡し来て頂いている。受診結果も、変化があった場合は直ぐに報告し、緊急時の受診先等も、ご家族の希望に対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応方針を入居時に説明し、医療連携体制の説明を行い同意も得ており、ご本人・ご家族の希望を把握できている。ご利用者の状態やご家族の都合が変わられた時等、ご本人・ご家族の希望に出来るだけ添える様、繰り返し話し合っている。点滴が毎日必要になったり、経口摂取ができなくなった場合は、ホームで対応できないことを、かかりつけ医等の関係者や職員と話し合っている。ご家族も“最期は病院で”という希望が強く、ホームでできない事等を含め、急変時にはどう対応するかの話合いもできている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄介助や失禁時の対応、入浴介助等の際の誘導や声かけは、ご本人の動きや時間を見て行い、ご利用者の自尊心や羞恥心に配慮し、目上の方に対する尊敬の念をもって接するよう心がけている。個人情報保護法に関する資料を回覧し、個人情報を書かれた書類やメモ類を廃棄する場合には焼却炉で燃やす等、情報漏洩の防止も徹底している。	○	限られたご利用者に対して、「○○したらダメ」等と否定したり指導的な言動をとる事があるので、事務長や管理者が、今後も指導し、プライバシーの確保の徹底に努めたいと考えられている。職員間で、「こんな場合はどう対応する」といったことを再度検討する事で、職員の認識を高める等、今後の取り組みに期待していきたい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の体調を考慮し、日課等の無理強いはせず、参加される場合も「ゆっくりどうぞ」と声かけし、ご本人のペースを守るよう心がけている。ご利用者の希望をお聞きし、急な外出の希望も、ご本人に納得して頂いて日程変更する場合もあるが、可能な限り実現できるよう支援し、事務長も送迎を手伝う等して、職員がご利用者と関わる時間を、より多く取れるようにしている。ご希望を表さない方にも、意識して答えやすいような声かけを行い、全員と喜怒哀楽が共有できるように配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者が食べたいものを献立に採り入れ、食材の買出しや調理の下ごしらえ、下膳や食器の片付け、テーブル拭き等にお力を発揮して頂いている。菜園で採れた人参やほうれん草・玉葱・ジャガイモ、摘んできたツツ等の旬の食材や、知人から頂いた無農薬野菜を採り入れ、職員も一緒に食卓につき、テレビの話題で会話を弾み、楽しい雰囲気ですべてを頂くようにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間帯・回数はある程度決めているが、その時以外でも希望があれば入浴可能で、体調に無理のない範囲で入浴して頂いている。入浴している時間や順番、入浴剤の使用等をご利用者の好みに合わせ、羞恥心に配慮し個浴をさせて頂いている。入浴を嫌がられる場合は、陰部洗浄・清拭を行い、次の入浴日に入浴して頂いている。菖蒲湯・ゆず湯等を採り入れ、気持ちよく入浴できるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事前の「いただきます」の挨拶やラジオ体操の号令、レクリエーション時の歌の先生役や自分専用のカードに各ご利用者の食事量の記入、他のご利用者のお世話、モップがけ等の役割を持って頂いている。また、馴染みのマッサージやお寺参りに行かれたり、小学生の訪問や行事での花見やドライブ等の楽しみごとを一人ひとりに持って頂き、ご利用者の持たれているお力を発揮して頂いている。職員もご利用者が出来る範囲を把握し、出来ない点を支援するようにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居前からの行きつけであった、美容院やお店・お寺等に行かれるご利用者もおられ、気分転換の意味も含め、毎月の定期健診の帰りに買い物等に行き、日々も庭やホームの周囲の散歩に出て頂いている。ご利用者が外出を希望された場所によっては、ご本人も納得の上で2・3日以内の対応になることもあるが、近くの公園への散歩やお菓子等の買い物は当日にお連れする等、一人ひとりのその日の希望に沿った外出支援を心がけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	敷地出入口や玄関・居室の窓等は、すべてご利用者が自由に出入りできるようになっている。玄関からの出入りを把握できるように鈴を付け、ご利用者一人ひとりの習慣や落ち着かなくなる時間帯・傾向・原因を予め把握し、常にご利用者に声かけする等しながら、事前に対応策がとれるようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災を想定しての避難訓練を、職員・ご利用者・消防署が参加し行なっている。地域の消防団・区長へ、火災時の応援依頼を口頭にて行っており、“火災発生時のマニュアル”を配布している。今年の3月には、救急救命士によるAEDの使用方法や誤嚥時の対応方法の研修が行われた。災害発生に備えた、食料や飲料水の準備はまだ行なわれていない。	○	夜間の災害発生を想定した避難訓練を、今年の8～9月の間に、地域の消防団と行なう予定である。災害に備えて、食料等は特に準備していないが、同法人他事業所のすぐ近くに法人関係者のお店があり、話をすれば食料品は直ぐに手に入る状態にはある。法人本部と何がどれくらい必要かを検討する等、今後の取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者に食べたい物をお聞きし、管理者と職員が話し合ってメニューを決め、おやつも選べるようにする等、ご利用者が好みの物を食べられるように支援している。ご利用者毎に食事量を記録し、飲水量は必要量が摂取出来ているかを把握している。職員が、書籍等を参考にカロリーや栄養のバランスをある程度計算しながら献立を作成し、定期的な体重測定や血液検査の結果に基づいて医師等からの助言を得、疾病のある方も主食等でカロリーを調整している。	○	事務長が、さりげなく味が濃い等の助言をされている。食事の記録を、専門家である栄養士等に定期的にチェックして頂く事を、ホームの検討項目とされており、運営推進会議でメンバーに相談したいと考えられている。ご利用者一人ひとりに合った食事の提供ができるように、今後の取り組みに期待していきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂や居間に季節の飾り付けがされ、居間から見える菜園に季節の野菜を作り、ご利用者に季節を感じて頂けるようにしている。廊下に2～3人が掛けられる椅子を置き、居間の畳敷きのスペースにコタツを置く等、ご利用者がくつろいで座れる場所を設けている。保育所を改築してのホームは、廊下が少し広めではあるが、手すりやスロープ等を付けバリアフリー構造となる工夫をしている。その日の天候等により照明の調節を行い、空気の流れや臭いに注意し窓を開けて換気する等している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に入る大きさであれば、ご本人が使い慣れた物や好みの物を持ってきて頂いている。ご本人・ご家族で相談しながら、仏壇やタンス、テーブル、椅子、冷蔵庫、ラジカセ、ご家族やお気に入りの写真、電話や携帯電話等を持ってこられ、ご本人が過ごしやすいようにレイアウトされている。		